

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1	会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第2部会（第4回）
2	会議の開催日時	平成25年6月7日（金） 13時30分から15時30分まで
3	会議の開催場所	市役所第二別館 第1会議室
4	出席者名	審議会委員：渋谷治美部会長、大久保秀子副部会長、 浅輪田鶴子委員、久世晴雅委員、鶴見清一委員、徳 山晴美委員、中崎啓子委員、根本稔巳委員、林一夫 委員、三宅貫三委員、宮本直美委員、 事務局：江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、 富田昌洋、南友和、鈴木慶一
5	議題及び公開又は非 公開の別	議題 ・分野別計画（原案）について（健康・福祉分野） ・分野別計画（原案）について（教育・文化・スポ ーツ分野） ・（仮称）重点戦略に関する意見交換 ・その他 公開又は非公開の別 公開
6	非公開の理由	—
7	傍聴者の数	2人
8	審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9	問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10	その他	

さいたま市総合振興計画審議会第2部会（第4回）議事概要

第2回部会及び第3回部会の主な意見と、素案に対する修正の内容を確認した後、分野別計画（原案）について審議しました。

なお、本日の審議を踏まえた文言修正については、正副部会長及び事務局に一任されることになりました。

議題（1）分野別計画（原案）について（健康・福祉分野）

事務局から、資料1-1及び1-2に基づき、分野別計画原案について説明があり、計画全体を審議しました。

【主な意見】

○施策1：子育てしやすい都市の実現について

- ・「待機児童の解消に向け、保育所や放課後児童クラブの」とあるが、保育所と放課後児童クラブは別物である。放課後児童クラブについては、新規に「・」レベルで分けて記述するなど、表現を整理したらどうか。
- ・放課後児童クラブについて「保育サービス」とあるが、「サービス」は受け身的で、また親に対するものであり違和感がある。児童自身に対しての視点を加味した積極的な表現に変更できないか。
- ・「保育サービス」ではなく「保育施策」とすることも考えられる。
- ・現況と課題の最後、6つ目が最も重く受け止められるべき記述と感ずるので、記述の順番を変更するなどして整理したらどうか。
- ・成果指標全般について言えることだが、細かい数値を掲げることについて意味があるのか。誤差の範囲ととらえることもできるので、更なる検討が必要と感ずる。
- ・女性の就業率と出生率には因果関係があり、就業率が高い地域では出生率も高いというデータもある。女性が働きやすい環境整備に力を入れるべきである。

○施策2：高齢となっても暮らしやすい都市の実現について

〈特になし〉

○施策3：誰もが地域の中で自分らしく暮らせる都市の実現について

- ・施策のタイトルに「誰もが」とある一方、施策展開の各見出しは「障害のある人」が主語となっている。施策と施策展開の表現で工夫できないか。
- ・理解を深めるなど、障害のない人を対象とする施策があってもよいと思われる。施策展開を新たに1つ、追加する検討をしたらどうか。
- ・障害者一人ひとりの実情を踏まえた、特に職場などにおける周囲の理解と対応が必要であると感じることがある。
- ・みんなと交わることが大切で、様々な障害に関する理解が進むことがある。
- ・成果目標の表中を「障害者の新規一般就労数」としたらどうか。

○施策4：心身ともに健康で活力に満ちた社会の実現について

- ・成果指標の中で、「食品関係営業者の衛生向上率」が分かりにくい。

議題（2）分野別計画（原案）について（教育・文化・スポーツ分野）

事務局から、資料2-1及び2-2に基づき、分野別計画原案について説明があり、計画全体を審議しました。

【主な意見】

○施策1：希望をはぐくむ教育の推進と青少年の健全育成について

- ・施策展開（4）の見出しに「青少年の健全育成、参画」とあるが、表現が分かりにくいので、見直したらどうか。
- ・青少年の居場所のための施設整備が必要であり、検討してほしい。
- ・障害を持つ青年が、親に頼らず参画できる場づくりと、それを支える仕組みづくりが必要である。

○施策2：生涯を通じた学びの充実とその活用について

- ・成果目標に「公民館主催事業の延べ参加者数」とあるが、以前の部会でも話した通り、これを指標とするのはいかなものか。主催事業への参加を促すほかにも、公民館が団体の事業のマッチングをするなど、生涯学習を進めるための重要な取組があるのではないか。
- ・公民館については、地域住民の利用がなかなか難しい現状がある。システムの抽選のあり方を考慮するとともに、一部有料化も視野に検討したらどうか。
- ・公民館の講座は高齢者が利用するものという感がある。青少年や30～40代の利用という視点が抜けているように感じられる。「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか？」についても「公民館等の講座」ではなく「地域の講座」でよいのではないか。
- ・大宮駅東口では、大宮区役所の移転に伴い、跡地について地域・学生等による検討を行っているが、複合施設など様々な新しい発想が生まれている。地域の連携を生み出すという視点から、複合化、統合化について記述できないか。

○施策3：健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現について

〈特になし〉

○施策4：文化芸術都市の創造について

- ・「これまで興味を持たなかった市民が参加したくなるような」とあるが、この表現は削除し、「新たな文化芸術活動の展開」などとした方がよい。
- ・成果指標の「市民（20歳以上）の年1回以上の文化芸術活動参加率」は、個人

の趣味に関するもので、指標としてそぐわないのではないか。

議題（３）（仮称）重点戦略に関する意見交換

事務局から、資料３に基づき、（仮称）重点戦略の考え方とテーマイメージについて説明があり、委員による意見交換を行いました。

【主な意見】

- ・大宮駅東口における複合型施設の話があったが、これを地域の連携促進といった視点からの施設の総合化・複合化という施策にできないか。
- ・さいたま市はどういうまちなのか、改めて考えてみる必要がある。眠りに帰るまちではなくて、若者が市内で働けるまちが理想である。また、東日本のハブ・シティとしての位置づけや、見沼の自然の位置づけも重要である。
- ・「のびのびシティさいたま市」というキャッチフレーズの活用を検討したらどうか。
- ・「子ども」「高齢者」を対象とした戦略は割とよくあるように思うので、ぜひ、「誰もが」や「市民が」といった視点も入れていければと思う。
- ・「さいたま市らしさ」とは何か。子育て支援が充実しているなどして、若い人が安心して働ける環境こそが「らしさ」だと思うので、子育て支援に関する戦略を一番目に持ってくるべきと考える。
- ・子育て支援は、詰まるところ経済など活力ある社会づくりにつながると思われるので、弱者を支援するといったニュアンスではなく、もっと強いメッセージ性があってもよい。
- ・都心で働いていた方が定年で地域に戻ってくる。医療の問題もあり、やさしい都市であるべきで、高齢者に関する戦略は必要だ。
- ・子「育て」というからには、単なる預かりというニュアンスではなく、人の成長を促すという視点を忘れずに入れるべきだ。
- ・さいたま市の良さはいっぱいあって、これだというのが難しい。１０区それぞれの良さがあって、その上で、改めて市の良さがあるのではないだろうか。
- ・各区の良さはもちろん強調して良いが、むしろ旧市の枠組みにこだわりすぎることで、郷土愛がマイナスに作用するようなことがあってはならない。

議題（４）その他

事務局から、部会の第５回開催日程について連絡がありました。

○ 7月19日（金）午前10時から 市民会館うらわ 101会議室